

☆年間第21主日(8月23日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

**第一朗読 (イザヤの預言 22章19～23節)**

主は、宮廷を支配しているシェブナに言われる。  
わたしは、お前をその地位から追う。お前はその職務から退けられる。  
その日には、わたしは、わが僕、ヒルキヤの子エルヤキムを呼び、彼にお前の衣を着せ、お前の飾り帯を締めさせ、お前に与えられていた支配権を彼の手に渡す。彼はエルサレムの住民とユダの家の父となる。わたしは彼の肩に、ダビデの家の鍵を置く。彼が開けば、閉じる者はなく、彼が閉じれば、開く者はないであろう。わたしは、彼を確かなところに打ち込み、かなめとする。彼は、父の家にとって栄光の座に着く。

**第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 11章33～36節)**

ああ、神の富と知恵と知識のなんと深いことか。だれが、神の定めを究め尽くし、神の道を理解し尽くせよう。  
「いったいだれが主の心を知っていたであろうか。だれが主の相談相手であつたらうか。だれがまず主に与えて、その報いを受けるであろうか。」  
すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです。栄光が神に永遠にありますように、アーメン。

**福音朗読 (マタイによる福音書 16章13～20節)**

イエスは、フィリポ・カイサリア地方に行ったとき、弟子たちに、「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。弟子たちは言った。「『洗礼者ヨハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいます。ほかに、『エレミヤだ』とか、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。すると、イエスは

お答えになった。「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。わたしも言うておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる。」それから、イエスは、御自分がメシアであることをだれにも話さないように、と弟子たちに命じられた。

### 朗読解説 ー主任司祭より皆様へー

暑い日が続きますが、皆様お変わりございませんか。日曜日は少し涼しくなり雨も降るといふ予報ですが、どうなるでしょうか。晴れてていいから、少し涼しくなってほしいというのが本音でしょうか。8月に入り暑い日が続いているので、お休みになっても心は神様に向けるようにしましょう。

さて今日のミサでは「鍵(かぎ)」がテーマになっています。錠前を開けたり閉めたりする道具なのですが、キーマンとかキーワード、キーポイントなどいろいろの場面で使われることの多い言葉です。今では電子化が進んで、カードキーのように錠前の開け方はさまざまに進化しているようです。そのようなカギが出てくるのが今日の朗読の特徴です。

### 第一朗読 (イザヤの預言 22章19～23節)

センナケリブという敵の王からエルサレムの街を守った主に忠実なヒゼキア王の書記官として権勢をふるっていたシェブナに対して、神はその権力を取り去るといわれます。シェブナはユダ王国にとって重要な人物「鍵を握る人物」だったのですが、その座をエルヤキムという人物に譲らせるのです。そこで神は彼の肩に「ダビデの家の鍵」を置かれます。「鍵」はその家のすべての錠前をかけたり閉めたりできるいわゆるマスターキーで、その人の権力の象徴でした。そしてエルヤキムはシェブナの代わりにユダ王国の実権を握ることになったのです。つまり神は選びにふさわしくない人を裁かれるのです。

ですからイエスの時代にユダヤを支配していたローマ軍の総督ピラトに対しイエスは「上から与えられなければ、あなたは私に対して何の権限もない」と言われたのです。神の選びにふさわしいものがカギを与えられるのです。

## 第二朗読（使徒パウロのローマの教会への手紙 11章33～36節）

パウロはここで選ばれた民の不忠実と新たに選ばれた異邦の民について述べています。不忠実に陥った選ばれた民を神はそのままにしておかれるのか。新たに選ばれた異邦の民は不忠実に陥った民にとって代って偉いのか。そうではなくパウロは「神の賜物と召し出しとは撤回されないものなのです」とはっきり言っています。人間の不忠実ささえも救いのためのものとした神の計画の深さに驚きの声をあげています。人間の狭い心からは及びもつかない神の知恵の深さなのです。パウロは旧約のイザヤ預言者やヨブ記の作者の言葉を使って「詩」を詠っています。「いったい誰が・・・。」すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのですと。これがパウロの世界観、信仰なのです。

## 福音朗読（マタイによる福音書 16章 13～20節）

イエスは弟子たちに世間の人たちは私のことを「何者だ」とどのように評価しているかを尋ねます。当時有名な預言者として名を知られていた「洗礼者ヨハネだ」という人や昔の預言者の名前を挙げる人がいると弟子たちは答えます。それに対しイエスは「ではあなたたちは私のことを何者だというのか」と尋ねます。これに対してシモン・ペトロは「あなたはメシア、生ける神の子です」と応えます。この答えに対しイエスはその答えはシモンの独創的な答えではなく父なる神のお考えなのだとおっしゃられます。そして「あなたはペトロ、この岩の上に私の教会を建てる。・・・そしてあなたに天の国の鍵を授ける」と言われます。ペトロはこのように弟子として最高の権威を授けられますが、この後の話の中で、ペトロは「サタン下がれ、あなたは・・・人間のことを

思っている」と糾弾されます。しかしイエスのこの選びは撤回されないのです。その代わりに、この選びにふさわしく生きるように導かれるのです。ペトロはローマまで出かけ、そこで主イエスのために最後まで踏みとどまり殉教を遂げるのです。主の選びはミステリーですね。

教皇様の旗の紋章には「鍵」が二つ描かれています。今日の福音から取られたデザインです。一度見てみるのもお勧めです。コロナ感染症が猛威を振るっています。ミサへの参加も無理せず、お家でのお祈りをお勧めいたします。イエス様は私たちの窮状をご存じですから…。

カトリック足立教会  
主任司祭 野口重光